自閉症・強度行動障害者支援：基礎
＊支援者向け

- 名古屋市緑区自立支援協議会が運営している強行部会（強度行動障害）で行った研修のレジメです。
- 緑区の事業所さんに向けた研修で、約６０名程参加されました。

- 強度行動障害支援者養成研修の内容を中心に、見落としがちな障害特性や実践で活用できる基礎知識を組み込んでいます。

- この研修は毎年同じ内容で行っており、この地域の事業所さんに自閉症の基礎知識を広げることを目標に進めています。

緑区自立支援連絡協議会
強行部会　研修会

自閉症支援がうまくいかない･･･
最初にやることは？

株式会社あいぽ　代表　奥山　善仁
名古屋市強度行動障害養成研修（基礎）
知多地域強度行動障害養成研修（基礎・実践）
自立支援協議会研修（緑区・天白区・東海市・東郷町）

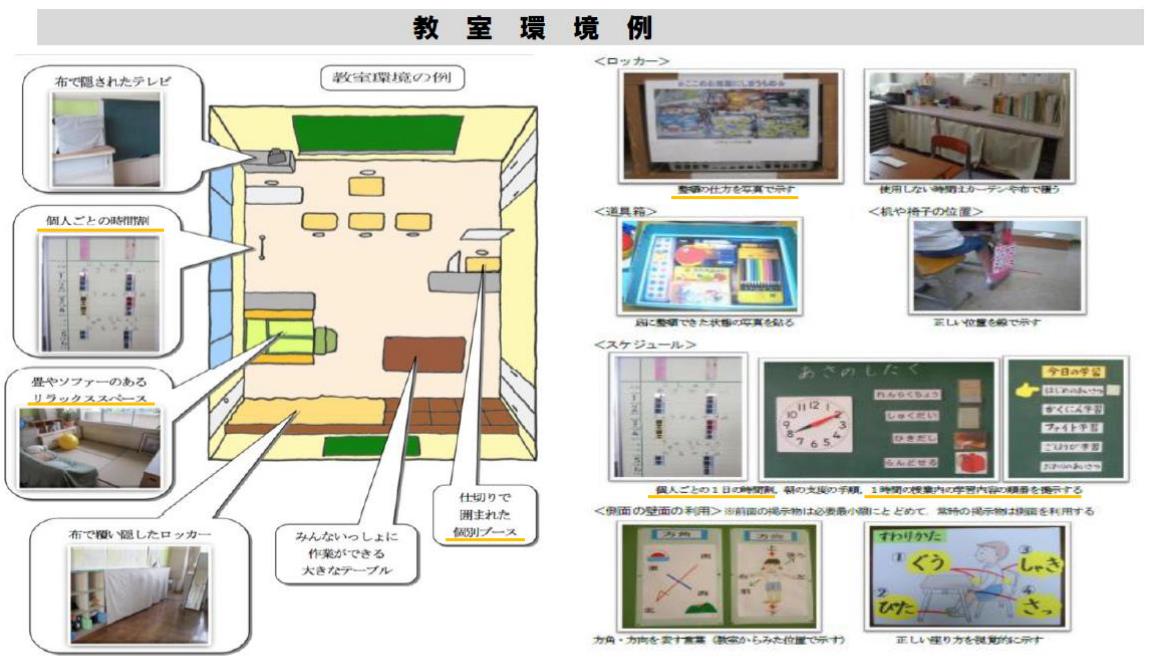
考え方は時代によって変化する

例）傷の処置

教育→特別支援教育H19～
　　模範例が次のスライド

福祉→H25からスタート
　　加算の創設がH30～
　　R3・R6の報酬でより手厚く

・研修の受講
・研修内容を元に
　計画の作成・記録



【参考資料】特別支援学級スタート応援ブック　学級経営編　教育研修センター　H25 参照

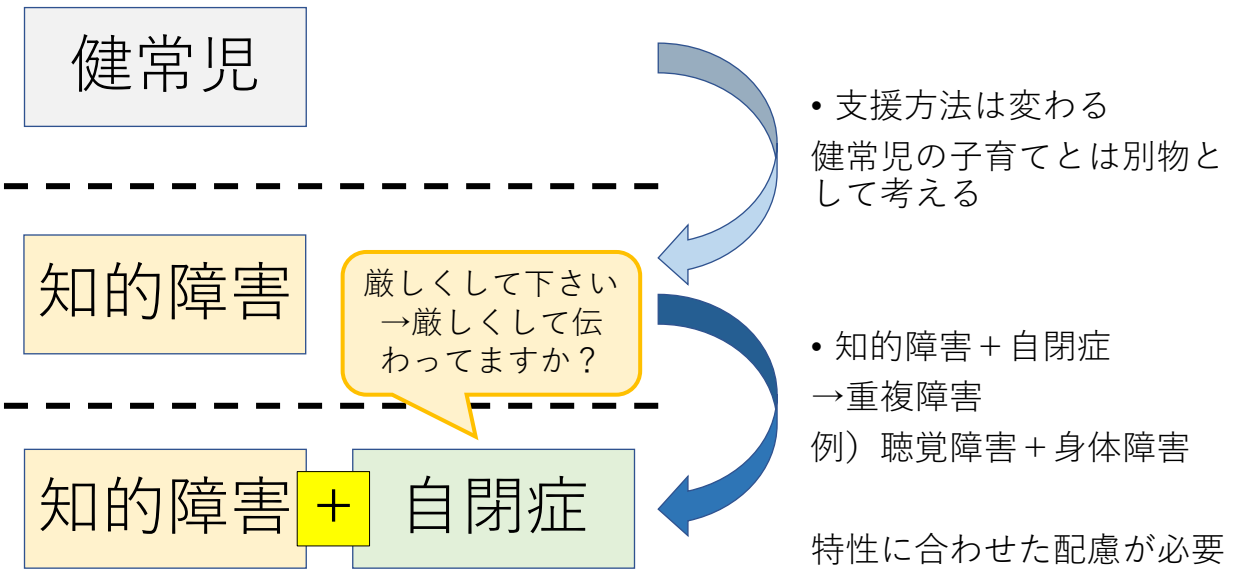
毎日小学生新聞、https://mainichi.jp/maisho/articles/20201218/kei/00s/00s/015000c

何故構造化された教室が必要？

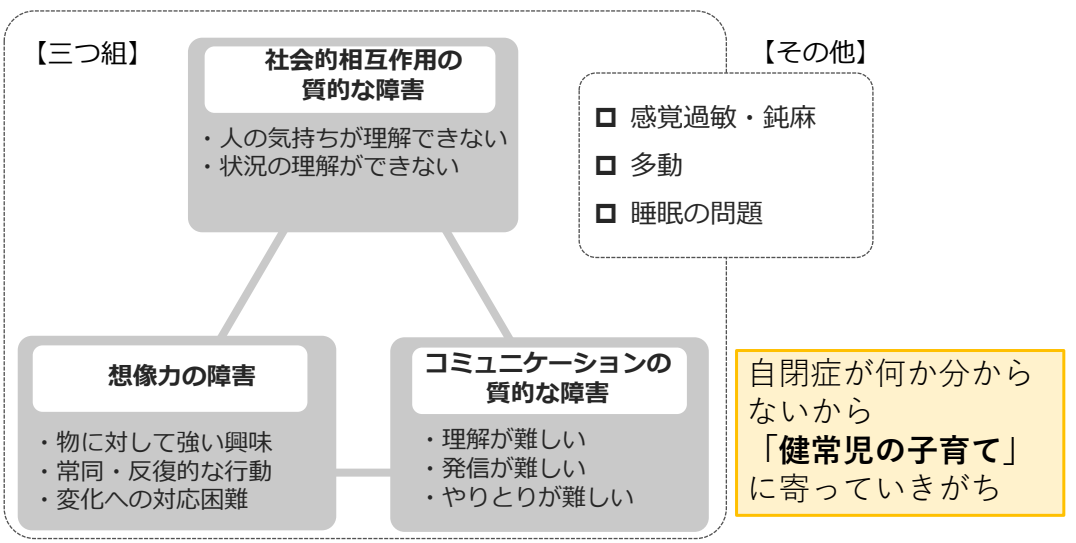
→障害特性に合わせた教育環境作り
＊特別支援教育

自閉症はどんな障害特性がある？
（発達障害）

健常者(児)と知的障害者(児)の子育ては別物として考える

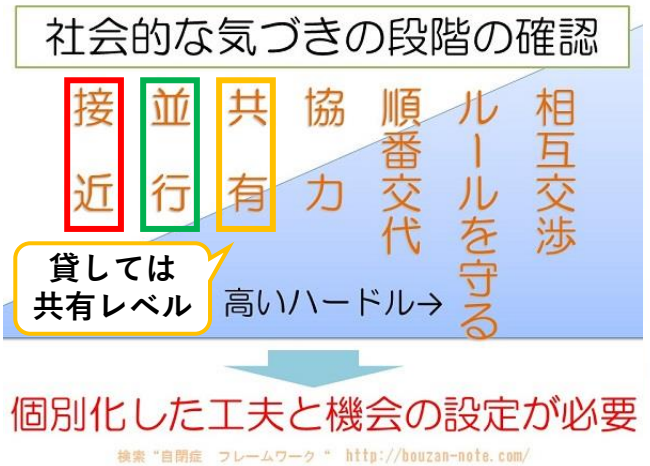


自閉症とは｜三つ組の障害



https://www.nozomi.go.jp/training/supporter.html

社会的な気づきの段階

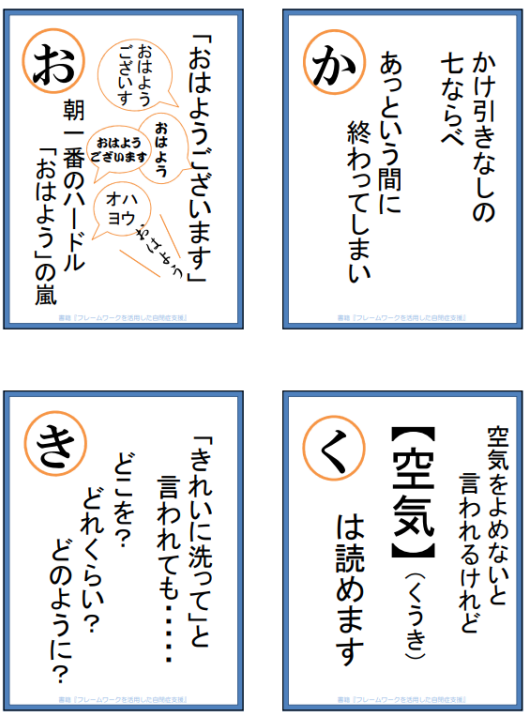


社会的な気づきの段階の確認

社会的な段階	解説
接近	ある程度の範囲内で他者の近くで活動する段階
並行	同じ物をもっている他者と並行で活動する段階
共有	材料や道具などを共有で使った活動を進める段階
協力	１つまたは複数の目的に向かって協力しながら活動を進める段階
順番交代	材料や道具、場所、活動を順番を意識し交代で進める段階
ルールの尊重	公式な又は自然にできたルールを意識して活動を進める段階
対人的相互交渉	状況にあわせて相手又は周囲の人に相互交渉しながら進める段階

検索“自閉症　フレームワーク“　http://bouzan-note.com/

水野 敦之,BOUZAN NOTE!!
https://bouzan-note.com/



水野 敦之,BOUZAN NOTE!!
https://bouzan-note.com/

強度行動障害児・者支援の標準化

＊強度行動障害の97.5%が自閉症

～支援の基本的概念～

「自閉症の障害特性の理解からスタート」

「構造化を中心とした環境調整の重要性」

＊環境調整
→見える形で伝える

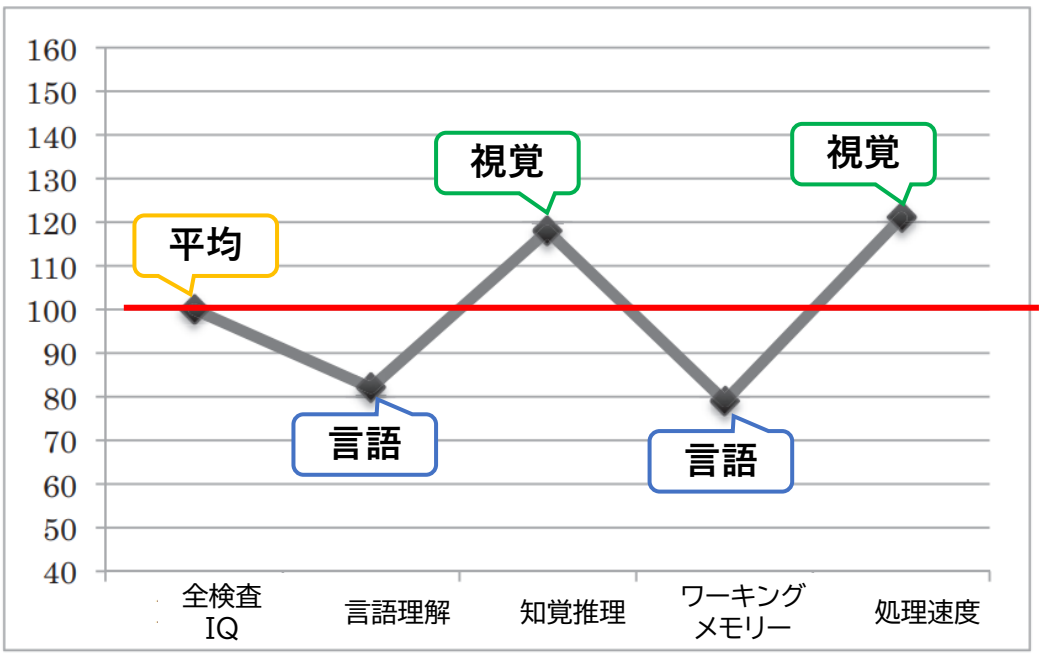
視覚の優位性

自閉症児者は、耳で聞くよりも眼で見るほうが認識しやすい特性（視覚優位）がある

認識する処理に差があり、視覚的情報処理の方が優れている。→発達検査

＊声や音は聞こえている。情報処理に差がある。

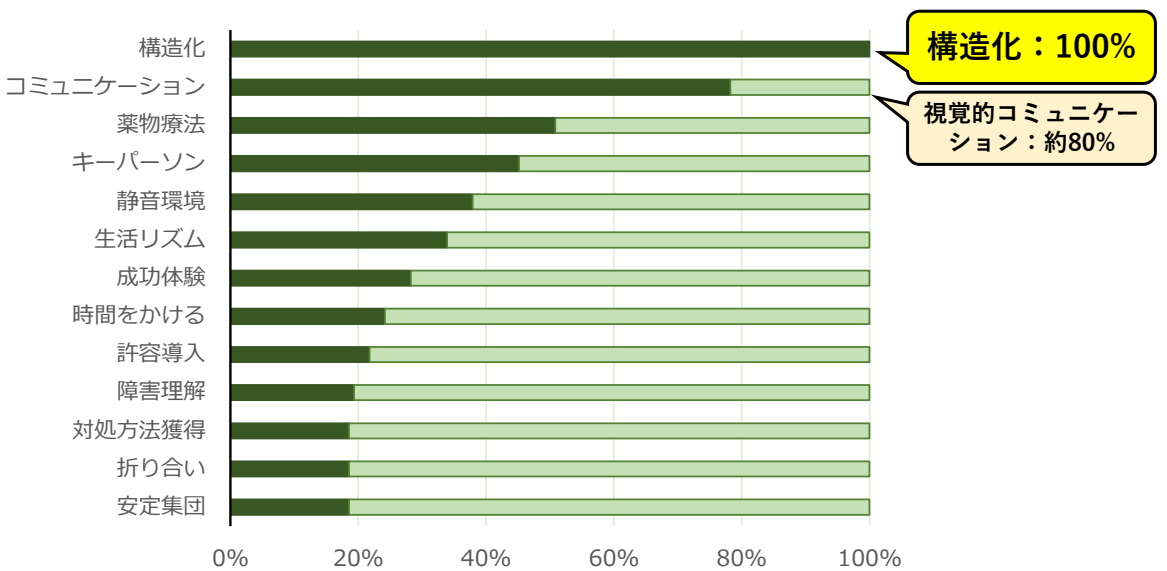
視覚的な支援を増やす事で、伝わりやすくしていく



カナータイプ：言語が少ないタイプ　　ASD（カナータイプ）

山口大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要第43号

強度行動障害（自閉症）に有効だった支援



引用：独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　強度行動障害支援者養成研修資料

構造化とは
「わかるように伝えるための環境を整える方法」

～構造化の種類～

＜空間の構造化＞

エリアを分ける・仕切りや配置等

＜スケジュールの構造化＞

本人が見て先の予定が理解出来るように

＜視覚的構造化＞：作業や課題

作業や課題を理解しやすく用意する

＜ワークシステム＞：作業や学習環境の整備

作業や課題を行なう際に、決まった流れ・手順・配置等

TikTokで見ることが出来ます
約3分の動画

＜動画＞
発達障害児・者の接し方

佐々木正美先生：児童精神科医
伊藤幸弘先生：青少年カウンセラー

佐々木正美先生

構造化の用語の元になっているTEACCHを日本に広めた先生
自閉症・発達障害分野の第一人者
子育て支援でも有名

二次障害

- 二次障害を良くしようとしてもすぐには良くはならない
＊出てしまった事柄にアプローチをしても効果は薄い
口うるさくなってませんか？効果はありましたか？
注意をしても間違った行動が繰り返されてませんか？

- 二次障害ではなく、障害特性にアプローチを行う

不適切な環境で不適切な養育をした結果が二次障害

- 不適切な環境

- 不適切な養育

不適切な環境で不適切な養育をした結果が二次障害

- 不適切な環境

→見て分からない生活環境

- 不適切な養育

→言葉掛け中心の養育
　否定や注意の養育

口うるさい育て方は事態を悪くしていく

- 言葉は最小限にしていく
- 否定的な物の言い方も事態を悪くしていく

- こうすると良いよ
- 何をどうしなさいと言ってあげる

知的に重度の方は言語理解は難しい為、視覚が中心

- 一回言ってもすぐに聞かなくて良い

＊何度も言う人は最悪。口うるさくなっていく。

発達障害ではない子は、考える力がある

- 自閉症や発達障害は「想像力の障害」
- そんなことしちゃダメじゃないかと伝えてしまうと
  想像力の障害がある為に何をして良いのか分からない
- だから「こうすると良いよ」を伝える

NG例）走らない！
　　もう少し待って！

この言葉に隠れた言葉は？
想像力が必要

強度行動障害支援者
養成研修(実践)資料より

○支援の振り返りと修正の重要性

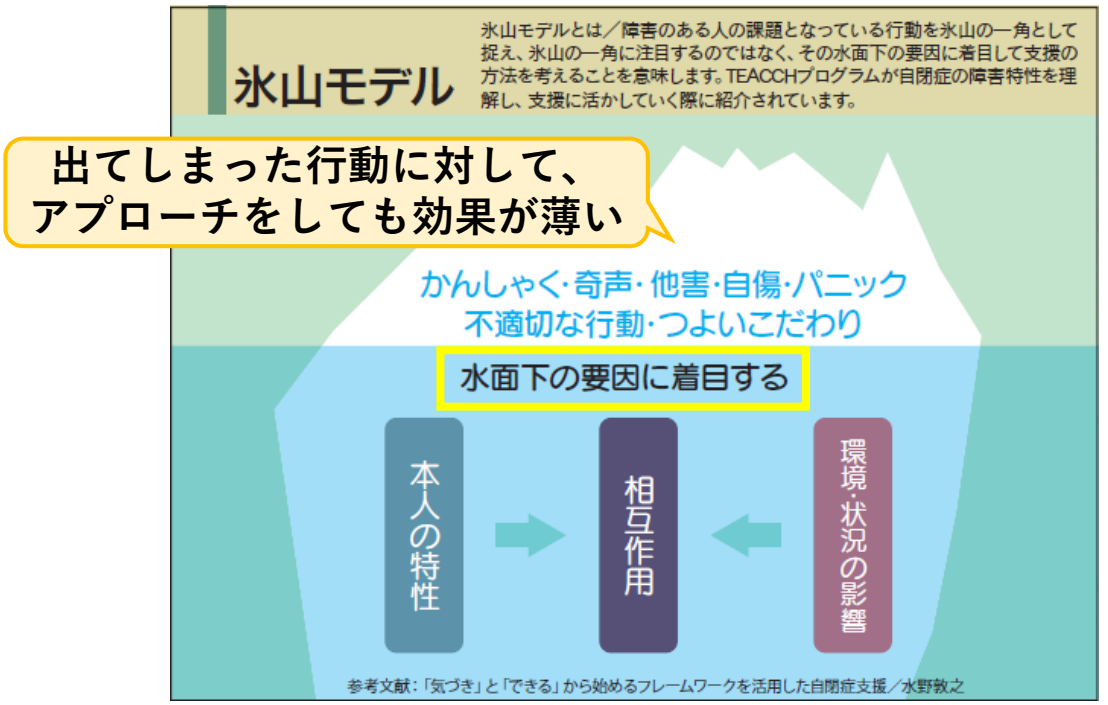
正確なアセスメントの難しさ

事後に行う注意・叱責は振り返る行為

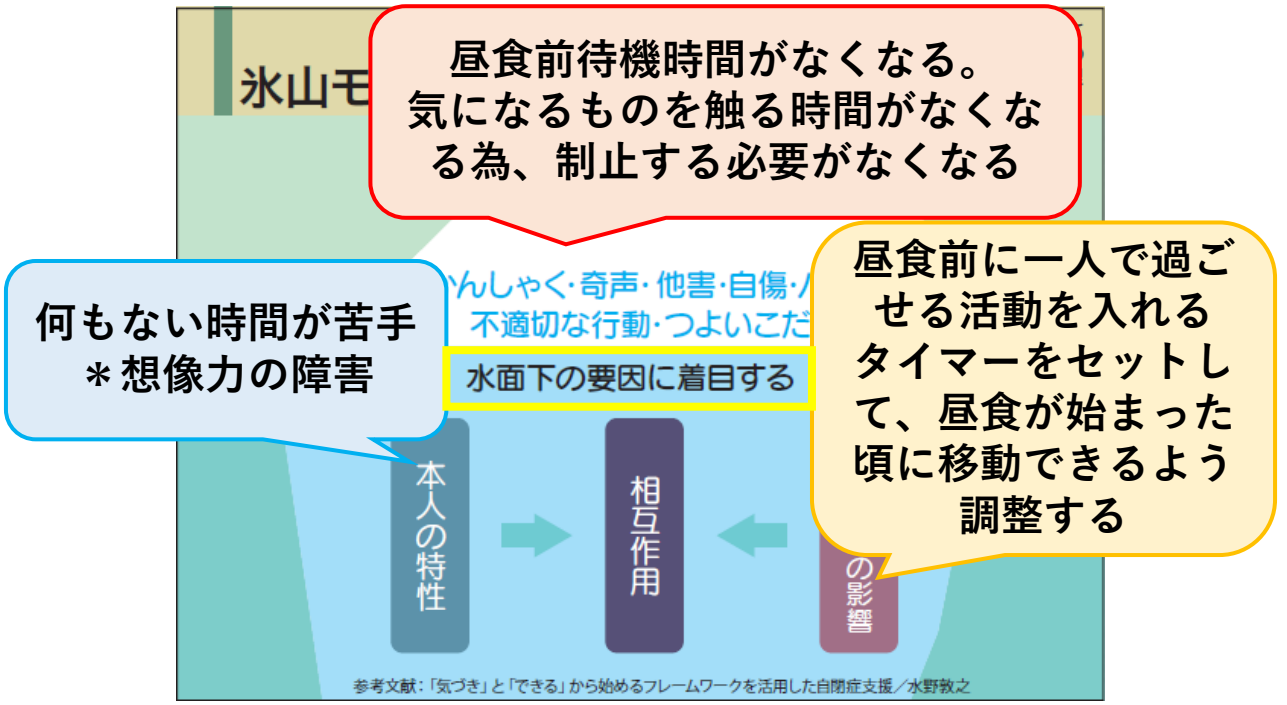
本人はコミュニケーションや自分自身で振り返ることが苦手（自閉症の特性）

支援現場には混乱を助長する環境がある場合もある

混乱している時は環境も見直す→構造化


氷山モデル
氷山モデルとは／障害のある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えることを意味します。TEACCHプログラムが自閉症の障害特性を理解し、支援に活かしていく際に紹介されています。
出てしまった行動に対して、
アプローチをしても効果が薄い
かんしゃく・奇声・他害・自傷・パニック
不適切な行動・つよいこだわり
水面下の要因に着目する
本人の特性
相互作用
環境・状況の影響
参考文献：「気づき」と「できる」から始めるフレームワークを活用した自閉症支援／水野敦之

昼食前の待機時間中に
気になるものを触ってしまう
制止されると暴力
何もない時間が苦手
＊想像力の障害
昼食前に待機時間
がある
不適切な行動・つよいこだわり
水面下の要因に着目する
本人の特性
相互作用
環境・状況の影響
参考文献：「気づき」と「できる」から始めるフレームワークを活用した自閉症支援／水野敦之



思春期に向けて

強度行動障害の推移

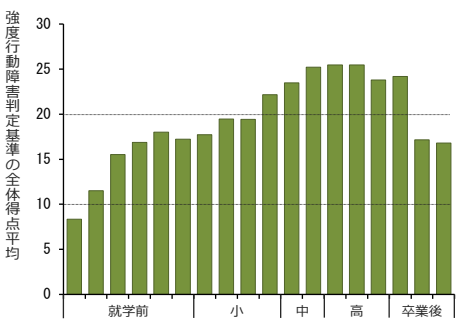


Fig. 強度行動障害得点の時期別の平均

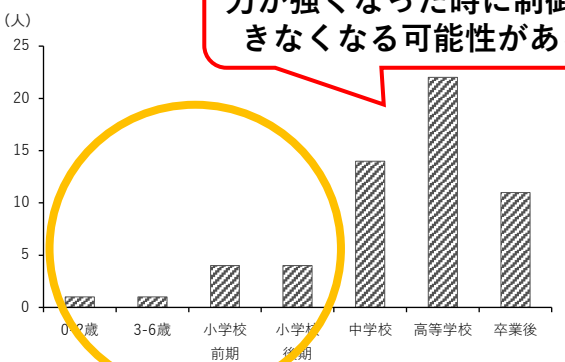


Fig. 行動障害が最も大変だったと思う時期

- ◻ 最初から強度行動障害というわけではない
- ◻ 中学校、高校、高校卒業直後に問題が大きくなるケースが多い
- ◻ 学校卒業後に比較的落ち着くケースもある

予定や変更が伝わるように支援
→構造化

社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会（2012）「強度行動障害の評価基準等に関する調査について報告書」より引用

まとめ

～自閉症支援の標準化～

「自閉症の障害特性の理解」

「構造化を中心とした環境調整」

言葉の指導に効果は薄い

事後の指導に効果は薄い

＊物事が起きた後に、注意や叱責等の効果を期待しない

→叱っても叱らなくても効果が同じなら、叱らない！！

Q&A

ご清聴ありがとうございました

構造化を中心とした支援を見てみたい方やあいぽの支援を参考にしたい方はあいぽまでお問い合わせ下さい

株式会社あいぽ
名古屋市緑区六田二丁目74
052-629-0775